

コケ類およびシダ類の分類学的能力構築のための上級コース

開催概要

ダイアナプラ大学、インドネシア共和国バリ州デンバサール

2014年11月25日より12月2日

本研修は ASEAN 各国からの研修生、講師、事務局あわせ 39 名の規模で行われた。ESABII 事務局である日本国環境省からは 4 名、ASEAN 地域より 3 名（シンガポール植物園、インドネシア科学院、バリ植物園）が講師として招聘された。研修生の内訳としては、ブルネイ 2 名、カンボジア 2 名、インドネシア 10 名、マレーシア 2 名、ミャンマー 2 名、フィリピン 3 名、シンガポール 3 名、タイ 2 名、ベトナム 2 名である。

分類学についてのコースは 11 月 25 日から 11 月 30 日までの 5 日間行なわれ、その後、データ構築についての研修が 12 月 2 日まで行われた。開会式にはダイアナプラ大学学長や日本国環境省代表が出席し、大学の教職員も多数参加した。

閉会式については、それぞれのコースの最終日に行われ、分類学コースの閉会式は宿泊場所であるアストンデンパサールホテルで行われた。また、4 日目にはバリ植物園にて野外研修が行われ、植物園の園長やスタッフの歓迎を受けた。また、スタッフの案内で植物園におけるコケとシダの観察を行った。

閉会式の後、データ構築グループへと引き継ぎを行い、事務局は 5 日目である 11 月 30 日に帰途についた。

コケ類およびシダ類の分類学的能力構築のためのインターンシップ・プログラム

開催概要

クイーンシリキッド植物園、タイ国チェンマイ

2015 年 1 月 20 日より 30 日まで

本研修は、コケ類およびシダ類における主として陸生植物の厳密な分類法を参加者と共有し、その技能の向上を大きな目的としている。具体的な目的としては以下の通りである。

1. コケおよびシダの陸生植物の分類法を研修生に紹介する
2. それらの植物に関する一般的な生態についての知識を養う
3. 研修生が獲得した分類学的技能を実践する機会を以下のように提供する
 - i. 形態観察の方法
 - ii. 標本採集、標本作成および個体確認
4. コケ類シダ類に関するフィールドガイドブックの草稿を作成する

研修生の内訳としては、ブルネイ 2 名、カンボジア 3 名、ラオス 3 名、インドネシア 3 名、マレーシア 3 名、ミャンマー 3 名、フィリピン 3 名、シンガポール 3 名、タイ 4 名、ベトナム 3 名である。また、事務局として ACB3 名、日本側 2 名、QCBG3 名で運営した。講師として招聘されたのは以下の通りである。

1. Dr. Benito C. Tan, コケ専門家、カリフォルニア大学バークレー校
2. Dr. Boon-Chuan Ho, コケ類分類学専門家、シンガポール植物園
3. Dr. Edwino S. Fernando, 分類学専門家、フィリピン大学ロスバニヨス校
4. Dr. Dedy Darnaedi, シダ類専門家、インドネシア科学院 (LIPI)
5. Dr. Bayu Adjie, シダ専門家、バリ植物園

その他、東京大学の川井絢子博士、韓国 NIBR のパクチャンホ博士が招聘された。

野外研修は、チェンマイより車で 2 時間のドインタノン国立公園にて行われた。

研修生より寄せられた評価シートによれば、少数の参加者（初参加）からの不満を除けば研修の満

足度はおおむね高いものであった。ほとんどの研修生が前回の研修に参加しており、その意味で期待に沿うものであったということができる。

専門家や講師からもおおむね高い評価を頂戴したが、研修生の質についていくつかの指摘がされた。特に指導的立場（マネージャーなど）にあるものが研修生として参加した場合、実験室や野外研修で実施されたクループワークに非協力的な面も見られ、講師が苦労する場面も見られた。

本研修の附加的な成果として、ドインタノン国立公園で実施された野外研修においてコケグループの採集した二つのサンプルが、その後の検証によって、熱帯アジア・インドシナの生息記録にない種と確認され、そのうちの一つは新種の可能性があるという事であった。また、シダグループの採取したサンプルの中にも、タイの生息記録にない種が確認された。